第一二四回
川崎市定期能

能と狂言

平成30年8月11日(土・祝)
会場：川崎能楽堂
入場料：各部 4,000円
(全席指定) U25 3,000円
※脇正面、中正面エリアのみ選択可。25歳以下の方。購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ちください。

第一部

12時30分開場
13時00分開演

狂言
痩松【やせまつ】
石田 幸雄(和泉流)

仕舞
天鼓【てんこ】
友枝 昭世(喜多流)

能
半蔀【はしとみ】
中村 邦生(喜多流)

第二部

15時00分開場
15時30分開演

狂言
清水【しみず】
石田 幸雄(和泉流)

能
融【とおる】
香川 靖嗣(喜多流)

チケット発売日
平成30年7月4日(水) 午前9時より川崎能楽堂窓口にて発売(先着順)
＊残券があれば、同日正午より電話・川崎市文化財団ホームページでも販売いたします。

チケット取扱・お問合わせ
川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37 窓口・電話 9:00～17:00
＊但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。
川崎市文化財団ホームページ http://www.kbz.or.jp/event/noh/20180811/
＊ホームページより申し込みの場合、予約確定は申し込んだ日の翌日となります。

beyond 2020

主催：(公財)川崎市文化財団 川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階 TEL.044-272-7366／FAX.044-544-9647
＊開演後はご入場いただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

【第一部】午後1時 開演（午後12時30分開場）

狂言 **痩松**
シテ 山賊 石田 幸雄
アド 女 岡 聡史

仕舞 **天鼓**
友枝 昭世

地謡 佐々木多門 内田 成信 金子敬一郎 大島 輝久

能 **半蔀**
後シテ 夕顔の上の霊 前シテ 里女 中村 邦生
ワキ 雲林院の僧 宝生 欣哉
アイ 所の者 竹山 悠樹
大鼓 大倉慶乃助
小鼓 森 貴史
笛 栗林 祐輔
後見 内田 成信 佐々木多門 友枝 真也 金子敬一郎 大島 輝久 友枝 雄人 長島 茂 狩野 了一

狂言 痩松【やせまつ】

山賊（シテ）が山中で待ち伏せをしていると一人の女（アド）が通りかかります。山賊は長刀を振り回して女を脅して持ち物の袋を奪い取ります。山賊は奪った持ち物を点検して喜んでいるすきに、女に長刀を奪われて……。

能 半蔀【はしとみ】

京都、北山の雲林院に住む僧（ワキ）が、ひと夏の修行を終えたので、その期間に毎日仏に供えた花々のために供養を行っていました。すると夕暮れ時に一人の里女（前シテ）がひとり現れ、一本の白い花を供えました。僧が、ひときわ美しく咲いているその花の名は何か、と尋ねると、女は夕顔の花だと答えます。僧が女の名を尋ねると、その女は、名乗らなくともそのうちにわかるだろう、私はこの花の陰からきた者であり、五条あたりに住んでいる、と言い残して、花の陰に消えていきます。〈中入〉

所の者（アイ）がやってきて、光源氏と夕顔の物語を話して聞かせ、その女は夕顔の亡霊であろうと述べ、五条あたりへ弔いに行くことを勧めます。僧が五条あたりを訪ねると、昔のままの佇まいで半蔀に夕顔が咲く家があります。僧が菩提を弔おうとすると、半蔀を上げて夕顔の霊（後シテ）が現れ、光源氏との思い出を語り、舞を舞い、夜が明けないうちにと半蔀の中へ戻っていきます。そのすべては、僧の夢の中の出来事でした。

【第二部】午後3時30分 開演（午後3時開場）

狂言 **清水**
シテ 太郎冠者 石田 幸雄
アド 主人 岡 聡史

能 **融**
後シテ 源融の霊 前シテ 汐汲みの老人 香川 靖嗣
ワキ 旅僧 宝生 欣哉
アイ 六条辺の者 竹山 悠樹
大鼓 大倉慶乃助
小鼓 森 貴史
太鼓 林 雄一郎
笛 栗林 祐輔
後見 友枝 昭世 狩野 了一 佐々木多門 内田 成信 大島 輝久 友枝 雄人 長島 茂 金子敬一郎

狂言 清水【しみず】

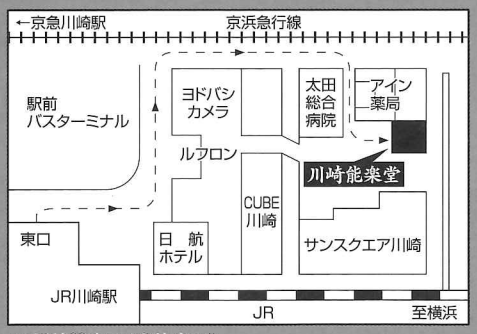
主人から、茶の湯で使う水を野中の清水へ汲みに行くように命じられた太郎冠者（シテ）は、行きたくないので、鬼に襲われたふりをして帰ってきます。主人は冠者が置いてきてしまった秘蔵の手桶を惜しがり、みずから清水へ行くと言い出したので、冠者は先回りし、鬼の面をかぶって主人を脅します。あわてて逃げ出した主人ですが、鬼が冠者を贔屓したことや、鬼の声が冠者と同じであったことを不審に思い、再び清水に出かけて行きますが……。

能 融【とおる】

秋の名月の日。都に上って来た旅僧（ワキ）が、六条河原院まで来て休んでいると、汐汲みの田子を背負った老人（前シテ）が現れます。僧が、海辺でもないのに汐汲みとはおかしいのではないかと言うと、この河原院はかつて源融公が、千賀の景色をそのまま都に移して作って住んだところだと老人は答えます。そして老人は、融は毎日難波の浦から潮を汲ませて、院の庭で塩を焼かせて風流な楽しみとしていたが、後を継ぐ人もなく、この河原院は荒れ果ててしまったことを物語ります。そして都の山々の名所を教えて、水を汲む様子を見せた後、姿を消してしまいます。〈中入〉

六条辺の者（アイ）から、融大臣のことや塩焼きの様子を聞いた僧は、先ほどの老人の話をすると、それは融公の霊の化身であろうから弔いをするよう勧められます。その夜、僧が眠りにつくと、在りし日の姿で融の亡霊（後シテ）が現れ、名月の下で舞を舞い、夜明けとともに再び月の都へ消え去りました。

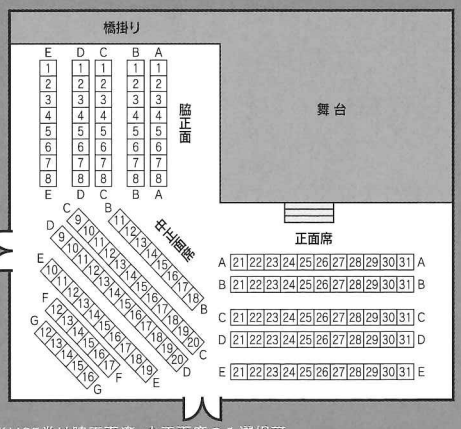
川崎能楽堂案内図



JR川崎駅東口より徒歩5分
■アクセス（JR川崎駅まで）品川駅より 約9分 横浜駅より 約8分
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

川崎能楽堂
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37
TEL.044-222-7995　FAX.044-222-1995

川崎能楽堂座席表（148席）



※U25券は脇正面席・中正面席のみ選択可。
※本公演は目付、シテ、ワキ柱とも150cmのものを使用しております。

次回公演のお知らせ

平成30年10月27日(土)
第10回狂言全集
会場：川崎能楽堂
出演：山本東次郎、山本則俊　他
チケット発売：9月19日(水)

平成30年12月16日(日)
第一二五回川崎市定期能
〜観世流銕仙会〜
会場：川崎能楽堂
第1部：能「松風」浅見 真州
第2部：能「藤戸」鵜澤 久
チケット発売：11月7日(水)